

事例14:『手伝ってくれてありがとう』って思ってもらおう」 4・5歳児混合クラス 5歳児(2月)

幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)との関連

①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑨言葉による伝え合い

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)

これまでの姿

・3学期に入り、自分達の午睡がなくなったため、3チームに分かれ、小さな組(1, 2, 3, 4歳児)が午睡から起きる時間帯に手伝いに行くことにした。なかなか勇気が出なかった子供も思い切って声をかけたり、優しく頭を撫でたりする姿が見られるようになった。そこで、この日手伝いに行く前に、これまでの手伝いを振り返るひと時をもった。

達成感を味わう
就学にあこがれや期待感をもつ
自分なりの課題を考えてやり遂げる

自信をもって
生活する

友達のよさを認め合う

異年齢に伝える

自分たちの成長を感じる

◎ねらい○内容

- ◎年長児としての自覚をもち、自分の成長を感じ充実感を味わう。
- 自分の思いを言ったり友達の気持ちを受け入れたりして心を通わす。
- 小さな組の友達の午睡後に関わったり布団の片付けの手伝いをしたりする。



遊びの様子(番号:10の姿との関連)

保育者が「お手伝いに行ってみてどうだった？」と問いかけると、④『布団畳むき下りて』って言ったら、すぐに下りてくれるよ』『起こすときは優しく頭をなでてあげたらいい』『服って人に着せたら、前後ろが分からなくなるがよねー』『Aくんは起こそうとしたら怒るがって…』等の話が出た。するとB児が「Aくん怒って言うけど、僕が行ったら怒らんで。⑨気持ちを気持ちよくしちゃったらいいがで」と言った。「気持ちを気持ちよくって、どういうことかな？」と保育者が尋ねると、C児が⑨「優しい気持ちで起こしに行ったらいいね」D児は⑨「手伝ってくれてありがとうって思ってもらおう」と言った。他の子供も次々に③⑨「それいいね」と言い、その言葉がクラスの目標となった。さらに、C児は②「チームの2人が着替えの手伝いに行き、僕は布団を畳みゆう」と言った。

その日、C児は①②③「今日も布団は僕に任せて。DとEはパジャマを着替えさせちゃって」と友達に向けて自分の思いを伝えた。①それを聞いたD児は着替えが終わっていない小さな組の友達を気にして手伝いに行き、丁寧にパジャマを畳んだ。

★環境の構成、○保育者の援助

★一つの机を囲むようにして集まり、互いの顔を見ながら意見を聞いたり、思ったことが言えたりするような雰囲気作りをする。

○友達の考えを聞き、理解したり共感したりしながら自分の考えを深め、具体的な経験に繋げていくことができるように言葉を足したり思いを引き出したりしていく。

○子どもが思いを共有し、共通の目的に向かってやり遂げ、満足感をもつことができるように、一人一人を認めていく。

★話し合った内容を異年齢の保育者に伝え、5歳児の主体的な活動を促し、自信に繋がっていくようにする。

遊びや学びのプロセス(10の姿)

「小さな組の手伝いをする」活動のプロセス

役に立つ喜びを感じ、充実感・満足感を味わう

友達と思いを通わせ、共通の目標をもつ

○思いを引き出す投げかけをする。

話し合いの中で、自分の気持ちを伝えたり、友達の思いを聞いたりする

★互いの顔が見えるよう集まり、思ったことが言える雰囲気作りをする。

○小さい組の世話についてクラスみんなで振り返る時間をつくる。

小さな組の世話をする

①健康な心と体

充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を動かしている。

①健康な心と体

午睡や衣服の着脱の必要性が分かり、小さな組の友達に関わっている。



②自立心

手伝いにはいろいろな役割があることを知り、自分の役割を自覚し、やり遂げようとしている。

③協同性

みんなで話し合った手伝いに対する共通の目的の実現に向けて、役割を分担したり協力したりして、取り組む楽しさを味わっている。

⑨言葉による伝え合い

経験したことを言葉にして伝えたり、友達の話を理解して聞いたり、伝え合う楽しさを味わっている。

④道徳性・規範意識の芽生え

小さな組の友達の思いを想像し、優しい気持ちで行動している。

小学校教員の気付き

◆入学してくる1年生に何でも教えてあげないといけないと思いがちだが、園で共通の目的に向かって経験してきたことを知り、小学校でも学びをつなげていきたいと思った。

◆自分達で目標を決めるという経験を年長から積み重ねていることを1年生のスタートからどのように活かすかが大切だと感じた。

◆やってみないと相手の気持ちが分からないことはたくさんあります。その都度振り返りながら、相手の気持ちと向き合って、次のよりよい方法を考える活動を小学校でも大切にしたいと思いました。



保護者への発信ポイント

◆小さな組と関わりをもつことで、相手の気持ちを考えて行動する姿が見られています。年長児同士で共通の思いをもって自分達にできることを、写真などを使ったドキュメンテーションなどで具体的に伝えていきましょう。